

林重徳先生退職記念行事開催報告

低平地沿岸海域研究センター 末次大輔

低平地研究センターの林重徳先生が、平成 22 年 3 月末日をもちまして、佐賀大学を定年退職されました。先生は平成 6 年 4 月に低平地防災研究センター（当時）に着任され、今日に至るまでの 16 年間、本学の研究・教育に携わって来られました。この機会に、研究室卒業生でこれまでのご指導に感謝の気持ちを伝えること、そして、これからの益々のご活躍を祈念することを趣旨として「林重徳先生を囲む会」を企画し、記念誌の作成と退職記念パーティを行いました。

研究室では林先生が佐大に着任されて 10 周年となる年に、これまでの軌跡を形にして残そうと、研究室卒業生・現役学生、そして林先生にも執筆いただき、10 年間の研究室の活動の総括とこれからの研究室の展望を書いた、「佐賀大学地圏環境学研究室 10 年のあゆみ」を作成しました。今回もやはりこの機会を形に残そうと、卒業生の中から記念誌の企画が持ち上がり、清水敬広氏（平成 8 年卒）と林真也氏（平成 9 年卒）によって記念誌「佐賀大学地平地研究センター林研究室の 16 年を振り返って」が作成されました。記念誌には研究室の 16 年間の動きとそのときどきの世の中の出来事、研究室の卒業・修了生全員から退職される先生へのメッセージを掲載しました。そして、在職時に指導された学生達のことやその当時の研究室の雰囲気を出していただくことを目的に、これまで先生から評価を受けて卒業した研究室卒業生・修了生全員で、今度は逆に大学を”卒業”される先生の「人柄」や「研究指導」についてコメント付きで評価をしてもらい、詳しい分析と考察を加えて「教授の通信簿」として収録しました。

退職記念パーティは、3 月 13 日（土）にホテルニューオータニ佐賀で行いました。研究室卒業生 40 名の他、九州大学在職時に交流のあった方々や先生の指導を受けた方々にもご参加いただきました。また、先生と交流の深い当日参加できなかった海外の研究者のからも、写真付きでメッセージが会場に寄せられました。パーティでは研究室卒業生の思い出話や、九大時代のエピソードなどが披露され、終始和やかな雰囲気でした。そして、清水・林両氏によって記念誌も披露され、主旨や内容の説明が行われました。中でも「教授の通信簿」については、プロジェクターを使ってグラフ化した評価結果等を示しながら講評が行われて、質問が飛び出すなど、会場は大いに盛り上がりました。先生も研究室でのあの瞬間、あの学生、を思い出されたのではないのでしょうか。

退職記念パーティーの前日（3 月 12 日（金））には、（社）地盤工学会九州支部佐賀地区主催で、「天然材料を利用した地盤技術」と題した講演会をアバンセで開催しました。この講演会では、飛島建設（株）沼田淳紀氏と林先生を講師としてお招きし、土木での木材利用をテーマにご講演いただきました。林先生の講演では、長年取り組まれてきた研究の内容に触れながら、土木の名の由来となった土や木、あるいは石を上手く使ってインフラを

整備していくことの重要性や、地盤技術の新たな分野への展開の可能性と必要性をお話いただきました。この講演会は林先生の大学教員としての最後の講演会となりましたが、土木に関わる技術者・研究者や林業関係者など 100 名を超える参加があり、今回のテーマへの関心の高さがうかがわれました。

林先生は平成 22 年 4 月から唐津市にある日本建設技術株式会社に勤務されています。また、引き続き本学において客員研究員として在職時から継続している科研費研究に取り組まれています。退職後は”晴耕雨読”の生活をされると言われていましたが、在職時と変わらない程アクティブに活動されています。今後もますますご健康で活躍されることをお祈りいたします。

最後に本行事を機会に、研究室卒業生や現役学生の交流がますます深まることを願っています。そして、本行事の実施に際しては、企画段階から半年にわたって林研究室の卒業生および現役の大学院生、学部学生に惜しめない協力を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

